



健やかに育つ子どもたち

”光陰矢のごとし“本当に、その言葉を実感する今日この頃です。ついこの前、入園したばかりの年少さん。お母さんと離れるのが辛くて、毎日泣いていたのがうそのようです。今では、友達と愉快地話したり、元気に園庭を走り回ったりしています。登園して直ぐの靴の履き替えや洋服の着替えは、先生の手伝いがあったりどうにか出来ていましたが、今では、自分の力で出来るようになりました。今では、幼稚園にすっかり馴染み、自分の事は自分で出来るようになってきました。嬉しいことです。しかし、明日から、長い夏休みが始まります。保護者の皆様の中には、休み中に、家での生活に慣れてしまい、また、元に戻るのではないかと心配される方もおられるかもしれません。しかし、こうしたことを繰り返しながら、子どもたちは逞しく、健やかに成長していくものです。

年中さんや年長さんは、この数か月で、少年少女らしい顔つきになり、年下の世話が出来るようになり、お兄ちゃん、お姉ちゃんになりました。先ごろの身体測定でも、「25kgを越えました。」との報告。3000g前後で誕生した子どもたちも、すっかり大きくなりました。

前号で、年長さんの話し合い活動のことをお知らせしましたが、その後、年長さんは、自分達の保育室や図書室の本の整理をしたり、バルコニーの拭き掃除をしたりして、幼稚園のために自分達で出来ることを継続して実践しています。月刊誌を見ていると、ある保育園では、園児が、お母さん手作りの雑巾を使って床拭きをするそうですが、年長になると、自分で針仕事をして雑巾を縫い上げるとか。出来上がった雑巾を、先生や友達に自慢げに見せに来るという内容でした。

大人は、幼児期の子どもは、何もできないと考えがちです。ましてや、針、包丁、ナイフなどは危険だと考え、触らせない傾向にあります。しかし、正しい使い方を教えると、子どもたちは、用途に応じて上手に使うことができます。子どもたちは、何にでも興味を持ち、自分の力でやろうとするチャレンジ精神を持っています。

そこで、夏休みの期間に、子どもたちと一緒に、自分の力で出来ることを話し合ってください。年少さんは、先ず、身の回りの事をさせてください。

年中・年長さんになると、後片付け、お母さんのお手伝いなど家のためになることを見つけ、継続してできるようにしてください。保護者の皆様は、温かいご支援をお願いします。夏休み後、一段と成長した子どもたちに会うのが楽しみです。



お姉さん留学生との交流

本園の教育方針は、恵まれた環境を生かし、子どもたちに、いろいろな体験を取り入れ、生きる力の基礎を養うことです。その一つに、大学の附属幼稚園のよさを生かして、異国文化に触れさせるというのがあります。

毎年、筑紫女学園大学にアメリカ、オーストラリア、中国や韓国など数か国から留学する女子学生との交流を取り入れています。去る12日(火)に筑女大に短期、長期に留学する17名が、本園を訪問し、園児たちと楽しく交流をすることができました。

子どもたちが登園完了するまでの間、教頭と私が相手することになり、子どもが喜ぶ紙飛行機作り、紙鉄砲作りに挑戦してもらいました。目的は、子どもたちと交流する時に、一緒に作ってほしいという思いからです。留学生を相手に英語で説明となるとちょっとハードルが高いので、久しぶりに辞書を引き、折り紙の説明書や挨拶文を英文にしてみました。

留学生は、初めて紙飛行機作りを体験するとあって、全員が、意欲的に取り組み、完成後、みんなで、楽しく飛行距離競争をしました。紙鉄砲づくりでは、台湾から来た留学生が、「12年前に塾で習いました」と言って、喜んで紙を折っていました。

子どもたちとの交流では、年少・年中さんとは、プールに入る前の準備体操兼ダンスを一緒に楽しんでもらいました。年中さんのクラスで、カルタ取りがあっただけで、一人の留学生が、読み手になるという一幕もありました。年長さんのクラスでは、クイズ形式で交流が進められていたようです。

この日に備えて、英語の勉強してきた職員もいました。しかし、今回の留学生の多くが日本語を話し、中には1年間福岡に住んでいるということもあって日本語が流暢だったので、英語を使う機会がなかったと悔やむことしきり。子どもの中には、英語を習っている子もいて、「Good morning!” や” Hello” と格好よく挨拶をしていました。留学生も子どもたちの仕草を見て、笑顔で、「Cute!” を連発。9月には、ミクロネシアからお客さんが来園される予定です。

